山梨県立わかば支援学校　インクル推進だより　No. 2

WAKABA

令和4年10月7日発行　文責:是枝

＊「インクルーシブ教育」について考える ＊

前号にも記しましたが、共生社会の形成に向けて、障害者の権利に関する条約に基づく「インクルーシブ教育システム」の理念が重要であり、その構築のため特別支援教育を着実に進めていく必要があります。

この特別支援教育を推進していく取り組みの一つに、「交流及び共同学習」があります。これは、障害のある子どもにとっても、障害のない子どもにとっても、経験を広め、社会性を育て、豊かな人間性を養うとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会となるなど、大きな意義を有するものです。

わかば支援学校では、「交流及び共同学習」を学校間交流、地域交流、居住地校交流（希望者）という形で実施しています。協力校や地域の方々と連携し、障害のある児童生徒に必要な「合理的配慮」を行いながら実施することで、同じ地域に住む一員として、相互理解を深める場になっています。

しかし「交流及び共同学習」は、特別支援学校と地域の学校間だけで行われているのではありません。小・中学校の、通常の学級と特別支援学級との交流も、「交流及び共同学習」の一つです。この時も、特別支援学級に在籍する児童生徒が、学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら充実した時間を過ごせるよう、通常の学級においても、特別支援学級にいるときと同じ手立てや支援（合理的配慮）を受けることが大切です。半年が過ぎた今、ここで振り返り、対象児童生徒にとって十分な教育が受けられるために合理的配慮がなされているか評価してみてください。

特別支援学級における手立てや支援等についてお困りの点があれば、特別支援学校のセンター的機能を活用することも一つの手段です。わかば支援学校の教育相談をご活用ください。

★ 本校への就学、進学、受検を検討されている皆様へ

教育相談では、学校に関わる個別の質問にお答えしたり、お子さんの詳しい状況などについてお聞きしたりします。本校に就学した場合のスムーズな移行につなげられるようにしたいと考えています。
入学してから、「思っていたことと違う」「こんなはずでは・・・」ということにならないように、事前に学校のことやお子さんのことをお互いに理解していきたいと考えています。是非、教育相談をご活用ください。

教育相談を受けるにあたってのお願い

・必ず事前に電話でご連絡ください。
（年長児につきましては保護者から、小学6年生、中学3年生につきましては学校の先生を通してご連絡ください。）
・感染症拡大防止の観点から、教育相談で来校される場合は、健康チェックのご協力をお願いします。詳細は、本校ホームページにある健康チェック表をご確認の上、教育相談当日に、ご持参ください。

わかばちゃん「ちょっと聞いてくりょ～し」

＊4 つの目で子ども理解の守備範囲を拡げよう＊

発達につまずきのある子どもを指導する際、実態把握が大切と言われます。特別支援学校や特別支援学級では、対象の子どもの実態を把握した上で、付けさせたい力など目標を設定し、指導計画を立てていきます。

教員が子どもを理解するための視点を沢山もっていることは、子どもをより広く、深く理解できると言えます。子ども理解の視点が狭いままだと、子どもの言動のちょっとしたことが許せない、授業にうまく対応できないのを子どものせいにしてしまう、ということにつながります。子ども理解の視点が多くなると、子どものちょっとした成長に気付き、喜びを感じます。また、子どもが授業にうまく対応できないときに、教師としての自分を磨き、次は対応しようと考えることができます。

子ども理解の「守備範囲」を広げる

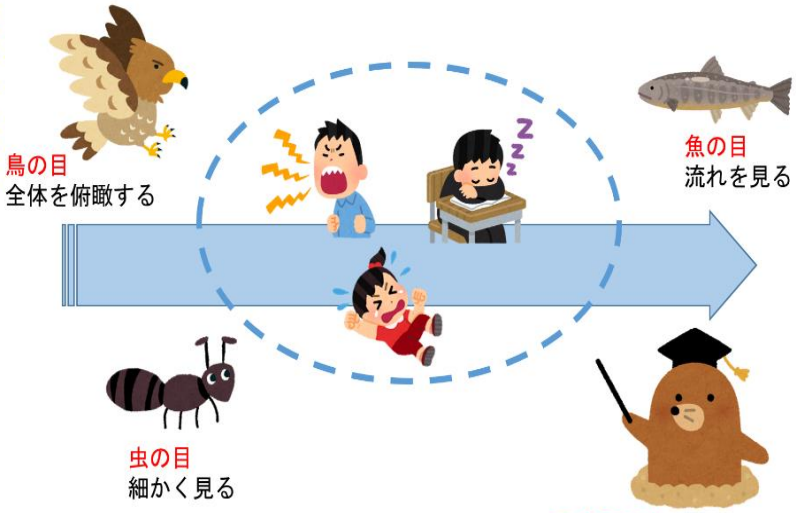
守備範囲が狭いままだと…
- 児童の言動のちょっとしたことが許せない
- 対応できないのを生徒のせいにする。

守備範囲が広くなると…
- 児童のちょっとした成長・変化に気づけて嬉しくなる
- 対応できない時に自分を磨き、次は対応しようと考える

「発達につまずきがある子どもの躍かせ方」川上康則 編著、明治図書（2018）より

東京都立矢口特別支援学校の川上康則氏によると、子どもを理解するときに、4 つの目で物事を見る習慣をつくることが大切だと言っています。

4つの目で物事を見る習慣をつくる



東京都立矢口特別支援学校　川上康則氏　講座資料を参考に作成

つまずきのある子どもの実態把握をする際、「ひとつの目」だけで見立ててしまうと、大切な部分を見落としてしまっている可能性があります。「4つの目」を意識し、多面的に実態把握をしていくことが大切です。そのためには、一人の先生だけで見立てるのではなく、多くの先生や関係者の目を活用しながら実態把握を行いましょう。そして、多くの先生方が関わるために、支援方法を共有していきましょう。

山梨県立わかば支援学校

〒400−0226 南アルプス市有野3346−3
TEL:055−285−1750
FAX:055−285−5827
担 当:インクル推進部（ 丸山 なつ江　五味 優紀　江上 桐子　鮫田 直子 ）
【ＵＲＬ】　http://www.wakabay.kai.ed.jp/
【Ｅ−Ｍａｉｌ】　wakaba-yg@kai.ed.jp

受付時間
月・水 13:30～17:00 火・木・金 9:30～17:00